

# The World Times-11月号

## Part 1

1-1 中西葵彩 1-4 藤井祐人

私たちは今回、日本に住んでいるとなかなか知ることのできない外国の教育について、大宮高校にゆかりの5人の方にインタビューしました。たくさんのお話が回えたので、11月号は2回に分けたいと思います。Part1 は森田早紀さん、カレン・リアンさん、金子夏枝さんです。

### 森田早紀さん(オランダ)

大宮高校理数科 2018 年卒業生。現在はオランダの Van Hall Larenstein University of Applied Sciences (Van Hall Larenstein 応用科学大学) 4年生で農業経営学専攻で、就労が困難な方の第三の働く場 social firm を研究中です。



#### ▶留学の経緯は？

高1の時に県主催のアグリハイスクールという事業に参加し、農業体験をしたことが農業に興味をもったきっかけの一つ。元々アメリカに住んでいた経験があったこと、高1の時に県主催のグローバルハイスクールに参加してハーバード大学などを訪れたこと、高2で英語部に入ったことで英語を使う機会が増えたことも海外の大学に行くという選択肢につながった。受験のために勉強するという日本の大学受験システムが合わなかったことも理由の一つ。オランダの大学を選んだのは、オランダが農業大国であることや英語のカリキュラムがあったから。

#### ▶オランダの大学の特徴は？

先生との距離が近く、先生から教わるのではなく議論する。また、グループワークが多い。応用科学大学ではどのように社会に活用できるかという視点から授業が行われていて、実際に企業の依頼に基づいて課題に取り組むなど、現場との距離が近い。

オランダでは高校を卒業した時点で何をしたらいいかわからない人が多いため、GAP YEAR を取ったり、とりあえず大学に入り自分に合うかどうかを見てみて自分に合わなかったら他の学部や大学に移る人もいる。

なぜそれができるか？→オランダでは日本と違い大学受験システムがなく、高校卒業証明書などがあればだいたい大学に入ることが出来る。つまり、気軽にこれはどうかな？と試すことができる環境があるということ。ただし大学1年が終わった時に、もし単位が取れていなかったら大学をやめなければならないということである。

#### ▶オランダの教育の問題点は？

オランダでは12歳くらいの時点で、研究大学か応用科学大学、中等職業教育の3つの選択肢の中から選ばなければならない。自分がしたいことがよくわからない若い頃に自分の進路について決めなければならないということである。

#### ▶コロナによる教育の変化

森田さんの大学では国のロックダウンによって全てオンライン授業や一部対面授業の時期もあったが、現在ではオンラインの選択肢も残しつつ対面授業がほぼ100%になった。オランダは日本と比べて以前からオンライン環境が教育で活用されていたため混乱は比較的少なかった。しかし人と会えないことによる精神的なストレスを抱える生徒は増えた。

#### ▶大高生へのメッセージ

日本社会という限られた価値観にとらわれずに自分の道は自分の価値観を確立させつつ切り拓き、自分で歩んでほしい。そういう道を選んでも大丈夫。

### Kalen Lien さん(USA)

アメリカ・ウィスコンシン州在住。スピーチセラピスト(言語聴覚士)。スピーチセラピストとはコミュニケーションや言語に関わる問題をもつ人を支援する仕事で、脳に障がいがある人などさまざまな状況の人と関わっていらっしやる。



#### ▶アメリカのいいところは？

問題はたくさんあるがそれを隠さずにオープンにしてどうにか解決しようとしていること。特にこの5年で Black matters などの Racism や Sexism などの social problems についてみんなが語るようになった。

#### ▶アメリカの高校の特徴は？

日本は、大学に行くかどうかの決定が早く、高校3年間ずっと進路指導がある。また部活がぶつう一つで、自由時間が少ないが、アメリカは自由時間が多くて、学校の内外の課外活動に複数参加したり、バイトをしたりしている。授業は選択科目が多い。また、日本は先生が親のようだが、アメリカでは教師は教師。

#### ▶アメリカの教育の問題点は？

住んでいる地域の学校に通うので、どの地域に住んでいるかで親の収入が違い、教育の質が変わる。Low SES (socioeconomic status) の地域の学校では、教育以外に生活に必要なもの (Free lunch, free breakfast, laundry, free afterschool class など) を提供するの重要な役割。また、教師の給料が安いので、教師が転職してしまう。

#### ▶コロナによる教育の変化

オンラインの授業が工夫されたが、仕事も学校も家庭からになったので、格差が広がった。High SES の家庭は親が家で仕事できて子供の教育を見られたが、Low SES の家庭ではできなかったから。けれどもそういう家庭にもインターネットが提供されたように、コロナで格差が明らかになったために、社会が問題解決に動くようになった。

#### ▶大高生へのメッセージ

Be open and receptive to new information and to saying 'I don't know.' Make friends that are not Japanese or had different experience growing up, than you get. 自分の世界を越え違う世界の人のお話に耳を傾け、広い視野で世界について考えよう！

## 金子夏枝さん(コロンビア)

大宮高校普通科 1997 年卒業。外務省職員として日本国内の他、ウルグアイ、コスタリカ、アルゼンチンの日本大使館で延べ10年以上海外勤務し、2021 年よりコロンビアの日本大使館一等書記官。家族で首都ボゴタにお住まいです。



### ▶大使館でのお仕事はどのようなものですか

- 大使館の仕事は、各国でいわば日本の代理事務所として日本の国益を守る仕事です。主に以下のような役割分担で、各班が相手国政府内のカウンターパートとそれぞれ連携を取りながら仕事をします。これまで総務政務班と広報文化班を経験しました。

【政務班】任地の政治（内政・外交）情勢について日々情報収集し報告したり、本省の指示によって各種調査を行ったりする仕事。

【経済班】現地に進出している日系企業の経済活動を支援したり、両国の経済関係を強化する仕事。

【経済協力班】日本のODA（政府開発援助）を相手国のニーズに合わせて行う仕事。

【広報文化班】文化・学術・スポーツ交流を行ったり、その国の市民やメディアに日本についてより良く知ってもらい、文化行事や講演会等のイベントを実施したりします。

【領事班】在留邦人に対する行政手続きを行ったり、邦人の安全を守る仕事。

【官房班】会計を含む、館の運営を行う仕事。

### ▶コロンビアの教育の特徴は？

朝が早くたいいの授業は 7:00 から始まる。公立小学校は二部制になっていて午前中に学校に行く子どもと、午後から学校に行く子ども分かれる。私立の小中学校だったらスクールバスが出るが、ない場合は歩いて行かなければならず、治安が良くないため大人に付き添われて登校する。

就学率は小学校が 90%、中学校が 83%で中南米では高い方。良い点としては、多分教育の成果だと思うが、コロンビアの人は自分の意見をしっかり言うことに長けている。若者たちには自分たちの権利を守るために団結して声を上げたりデモを行ったりする力がある。

### ▶コロンビアの教育の問題点は？

勉強の利点を子どもたちに教えるのが難しい点。もともと貧困率が高いのがコロナで更に高くなって 2020 年の貧困率は 42%。そのため子供は学校に行くよりも父母を手伝ったり兄弟の面倒を見たりした方がいいのではないかなどと、学校で勉強する動機づけが難しい。給食によって一日の栄養を取る子もいるので学校を必要としている人もいる。

### ▶コロナによる教育の変化

政府は様々な対策をとっているが、影響は大きいと思う。コロンビア政府はコロナの感染対策で厳しいロックダウンを行ったため、子どもたちは学校へ行けなかった。オンライン授業ができる環境が整っている都市部の私立学校ではオンライン授業が行われていたがそれはごく一部で、多くの公立学校は最初の頃は何もなく、徐々に課題が配られたりなどしたが、一年半近く学校に行けなかったため教育が随分遅れてしまった。また、貧困の問題もあり、一度教育のサイクルから外れてしまうともう一度そのサイクルに戻るのが難しい場合がある。

### ▶大高生へのメッセージ

その時に将来に役立つなどと考えていなかったことが今生かされているように感じる。楽しいことは身につくので、高校時代に水泳部での経験が、今のチームでの仕事や、組織の中でのコミュニケーション能力や、体力勝負の仕事に生きている。楽しいと思うことを仕事にするためには、今楽しいと思うことを思いっきりやっておくといい。そして、壁にぶつかったときには、それは本当に越えられない壁なのか思考回路を変えてみる。意外と自分で作った壁だったりする。

\*\*\*:\*\*\*\*\*:\*\*\*\*\*:\*\*\*

『ラテンアメリカ時報』2021 年秋号に金子さんがコロンビアの移民事情について記事を寄せています。大変興味深いのでここで一部紹介します。（本誌は図書館に寄贈されています）

世界最大規模と言われるシリアの人道危機で世界に散ったシリア難民が 660 万人。その数に迫る勢いで、今日までに 560 万人以上のベネズエラ人が、政情不安と社会経済の混乱から逃れるため、国外に流出している。本稿ではこれらベネズエラ移民のうち、最多の 170 万人以上が身を寄せる隣国コロンビアで、コロンビア政府がどのようにベネズエラ移民問題に取り組んできたかに焦点を当てる。（中略）

隣国からの移民が短期間に何十万という単位で増え続けるという未曾有の危機は、移民庁が創設されたのが 2012 年と比較的最近なことからも明白なように、移民政策に経験の浅かったコロンビア政府のガバナビリティに多様かつ大きな挑戦を投げかけた。（中略）

2021 年 3 月 1 日、ドゥケ大統領は「ベネズエラ移民のための臨時保護条例」に署名し、国際的にも進歩的な移民政策と評価される更なる一歩を踏み出した。これはコロンビア在住のベネズエラ移民が、同条例に定められた「ベネズエラ移民統一登録簿」への登録手続きを経ることによって、10 年の間「臨時保護許可(PTT)」を得て国内に滞在することができ、その間 PTT を身分証明書として、就労を含むあらゆる法的行為を行うことができ、医療、教育等の公的サービスを受けることができるというものである。（中略）

ドゥケ大統領は、同法発行情、演説の中で次のように呼びかけた。「コロンビアは決して裕福ではないが、隣国から寒さと空腹を抱え、庇護を求めてくる人々の心の痛みを分かち合うことができる。我々は世界の随所で、移民政策が、移民排斥や移民否定の精神に汚されるのを見てきたが、コロンビアは友愛を以てこの挑戦に立ち向かう。我々は大量の人々の流れを、彼らの否定に結論付けなかった模範となるだろう。ベネズエラの友人たちよ、あなた方は一人ではない。」（後略）



左から2番目が金子さん。中央右がドゥケ大統領

ここまで読んでいただきありがとうございました。Part2 もお楽しみに！！